

【草花の部屋】

マクワウリ（ウリ科キュウリ属 *Cucumis melo* var. *makuwa*）

和名：マクワウリ（真桑瓜） **別名**：アマウリ、キンウリ、マッカ

英名：Oriental melon

ウリ目 蔓性一年草

原産地：北アフリカ、中近東地方

花言葉：古くから繋がり

花色：黄



← 写真-1 マクワウリの葉

撮影日：2019年06月19日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん

↘ 写真-2 マクワウリの雄花

撮影日：2019年06月24日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん

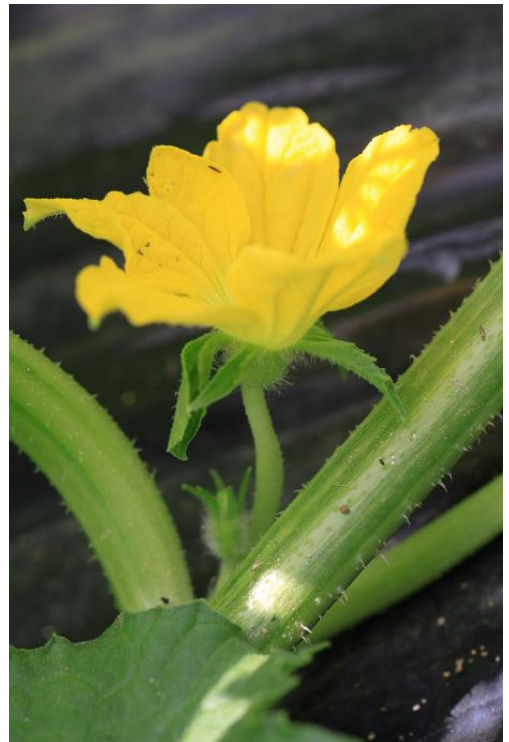


↑ 写真-3 マクワウリの雌花

撮影日：2019年06月24日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



← 写真-4 マクワウリの花

撮影日：2019年06月19日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



→ 写真-4 マクワウリの果実
撮影日：2019 年 06 月 19 日
撮影場所：大和郡山市
郊外にて
撮影者：M さん



メロンの一変種の植物です。雌雄異花で、雌花は下位子房です。花の萼の下に膨らみがあるのが雌花(写真-3)で、無いのが雄花(写真-2)です。

種としてのメロン(*Cucumis melo*)は北アフリカや中近東地方の原産で、紀元前 2000 年頃に栽培が始まり、そのうち、西方に伝わった品種群をメロンと呼び、東方に伝わった品種群を瓜(ウリ)と呼んでいるそうです。マクワウリもその一つです。

マクワウリの系統が日本列島に渡来したのは古く、縄文時代早期の遺跡(唐古・鍵遺跡)から種子が発見されています。マクワウリの名前は、美濃国(現在の岐阜県南部)の真桑村(現在の本巣市)でよく作られていたため、その地名をとってマクワ瓜(真桑瓜)と呼ばれるようになったようです。

古くから日本で食用にされ、古くは「うり」と言えばマクワウリを指すものだったそうで、この他、アジウリ(味瓜)、ボンテンウリ(梵天瓜)など様々な名称で呼ばれているそうです。

また、いろいろな品種があり、果皮の色については緑色系、白色系、黄色系の 3 色系統が存在します。黄色系の黄マクワは奈良県が原産で、昭和 11 年に育成された『黄 1 号』はマクワウリの基準品種になっているそうです。

マクワウリは連作障害を避けるために、同じ場所での栽培間隔を 2~3 年あけるようにし、接ぎ木苗を利用すればマクワウリの連作は可能です。

マクワウリは孫蔓に雌花をつける性質があります。そのため、果実をたくさん収穫するには、蔓を整枝して孫蔓を発生させるのがポイントです。

整枝の方法は・・・

- ・親蔓は、本葉 5~6 枚で先端を摘心する。
- ・子蔓は、勢いのよい 3~4 本を残して残りは摘み取る。そして、本葉 12 枚で先端を摘心し、孫蔓を発生させる。
- ・孫蔓は、着果したらその先の葉を 2 枚残して摘心する。

<ちょっと一言>

下位子房

ウリ科(カボチャ、ツルレイシ、スイカ)の花やキキョウ科の花では、子房は花被の付け根よりも下にあります。子房はまわりの組織に埋め込まれていて、花を上からのぞき込むと、まるで花の底からいきなり花柱が突き出しているように見えます。このような子房を下位子房(inferior ovary)と呼ばれています。